

志賀原子力発電所
原子炉施設保安規定
変更認可申請書
審査資料

【志賀原子力発電所1号炉 高経年化技術評価
(30年目) (冷温停止維持前提)】

2022年7月25日

北 陸 電 力 株 式 会 社

1. 実用発電用原子炉の設置，運転等に関する規則に基づく，志賀原子力発電所1号炉の長期施設管理方針の策定に伴う変更

1号炉が2023年7月30日で運転開始後30年になることから，実用発電用原子炉の設置，運転等に関する規則（以下，「実用炉規則」という。）第82条第1項に従い高経年化技術評価を行い，この評価結果を基に，実用炉規則第92条第1項に基づき，1号炉の長期施設管理方針を追加するため，関連する原子炉施設保安規定の条文を変更する。

（追加）

- ・添付4（長期施設管理方針）

（変更）

- ・第106条の6（原子炉施設の経年劣化に関する技術的な評価及び長期施設管理方針）

以 上

○資料－ 1

志賀原子力発電所原子炉施設保安規定

保安規定審査基準の要求事項に対する保安規定への記載内容

○資料－ 2

志賀原子力発電所原子炉施設保安規定

上流文書（設置変更許可申請書）から保安規定への記載内容

志賀原子力発電所原子炉施設保安規定
保安規定審査基準の要求事項に対する
保安規定への記載内容

(本資料において、ご説明する事項)

原子炉施設保安規定の変更認可申請においては、変更内容に関する下記の2点についてご確認頂く必要がある。

① 実用炉規則第9 2条第1項各号及び「実用発電用原子炉及びその附属施設における発電用原子炉施設保安規定の審査基準」(以下「保安規定審査基準」という。)に定める基準に適合するものであること。

② 原子炉等規制法第4 3条の3の2 4第2項に定める「核燃料物質若しくは核燃料物質によつて汚染された物又は発電用原子炉による災害の防止上十分でないものであること」に該当しないこと。

そのため、本資料の説明の構成は次のとおり。

1. 保安規定審査基準の要求事項に対する保安規定変更条項の整理

実用炉規則第9 2条第1項及び保安規定審査基準(以下、「審査基準等」という。)で要求される事項について、既許可の保安規定においてどの条項で対応しているのかを整理している。

今回の変更認可申請において、審査基準等に適合する変更内容であることを説明するため、審査基準等が要求する事項に対して直接的に該当する内容を変更するものについては変更有無欄に「有」を記載し、「主要な変更対象の項目」として黄色ハッチングを行う。

また、審査基準等が要求する事項に対して、直接的に該当する内容の変更ではないものの、条文単位で該当するものについては、変更有無欄にどの実用炉規則要求で変更するかを【〇〇関連にて変更】と明示する。

2. 保安規定審査基準の要求事項に対する保安規定の記載内容

前項において抽出された「審査基準等－保安規定条文の変更」について、詳細な対比を行い、審査基準等に適合する変更内容であること、又は審査基準等が要求する事項に影響のない変更内容であることを「保安規定の記載の考え方」欄でご説明する。

また、保安規定の変更内容に対応する社内基準(2次文書)の変更概要を記載する。

1. 保安規定審査基準の要求事項に対する保安規定変更条項の整理

 : 主要な変更対象の項目

保安規定審査基準（実用炉）		保安規定条文		変更有無
実用炉規則第92条第1項第1号【関係法令及び保安規定の遵守のための体制】	1. 関係法令及び保安規定の遵守のための体制（経営責任者の関与を含む。）に関するについては、保安規定に基づき、要領書、手順書その他保安に関する文書について、重要度等に応じて定めるとともに、これを遵守することが定められていること。また、これらの文書の位置付けが明確にされていること。特に、経営責任者の積極的な関与が明記されていること。	第2条の2	関係法令及び保安規定の遵守	—
	2. 保安のための関係法令及び保安規定の遵守を確実にを行うため、コンプライアンスに係る体制が確実に構築されていることが明確となっていること。	第2条の2	関係法令及び保安規定の遵守	—
実用炉規則第92条第1項第2号【品質マネジメントシステム】	1. 品質マネジメントシステム（以下「QMS」という。）については、原子炉等規制法第43条の3の5第1項又は第43条の3の8第1項の許可（以下単に「許可」という。）を受けたところによるものであり、かつ、原子力施設の保安のための業務に係る品質管理に必要な体制の基準に関する規則（令和2年原子力規制委員会規則第2号）及び原子力施設の保安のための業務に係る品質管理に必要な体制の基準に関する規則の解釈（原規規発第1912257号-2（令和元年12月25日原子力規制委員会決定）を踏まえて定められていること。	第3条	品質マネジメントシステム計画	—
	2. 具体的には、保安活動の計画、実施、評価及び改善に係る組織及び仕組みについて、安全文化の育成及び維持の体制や手順書等の位置付けを含めて、発電用原子炉施設の保安活動に関する管理の程度が把握できるように定められていること。また、その内容は、原子力安全に対する重要度に応じて、その適用の程度を合理的かつ組織の規模に応じたものとしているとともに、定められた内容が、合理的に実現可能なものであること。	第3条	品質マネジメントシステム計画	—
	3. その際、要求事項を個別業務に展開する具体的な体制及び方法について明確にされていること。この具体的な方法について保安規定の下位文書も含めた文書体系の中で定める場合には、当該文書体系について明確にされていること。	第3条	品質マネジメントシステム計画	—
	4. 手順書等の保安規定上の位置付けに関することについては、要領書、手順書その他保安に関する文書について、これらを遵守するために、重要度等に応じて、保安規定及びその2次文書、3次文書等といったQMSに係る文書の階層的な体系における位置付けが明確にされていること。	第3条	品質マネジメントシステム計画	—
実用炉規則第92条第1項第3号【発電用原子炉施設の運転及び管理を行う者の職務及び組織】	1. 本店等における発電用原子炉施設に係る保安のために講ずべき措置に必要な組織及び各職位の職務内容が定められていること。	第4条 第5条	保安に関する組織 保安に関する職務	— —
	2. 工場又は事業所における発電用原子炉施設に係る保安のために講ずべき措置に必要な組織及び各職位の職務内容が定められていること。	第4条 第5条	保安に関する組織 保安に関する職務	— —
	1. 発電用原子炉の運転に関し、保安の監督を行う発電用原子炉主任技術者の選任について定められていること。	第8条	原子炉主任技術者の選任	—
		2. 発電用原子炉主任技術者が保安の監督を十分に果たすことができるようにするため、原子炉等規制法第43条の3の2第2項において準用する第42条第1項に規定する要件を満たすことを含め、職務範囲及びその内容（発電用原子炉の運転に従事する者は、発電用原子炉主任技術者が保安のために行う指示に従うことを含む。）について適切に定められていること。また、発電用原子炉主任技術者が保安の監督を適切に行う上で、必要な権限及び組織上の位置付けがなされていること。	第3条 第6条 第7条 第8条 第9条	品質マネジメントシステム計画 原子力発電保安委員会 原子力発電保安運営委員会 原子炉主任技術者の選任 原子炉主任技術者の職務等
3. 特に、発電用原子炉主任技術者が保安の監督に支障を来すことがないよう、上位者等との関係において独立性が確保されていること。なお、必ずしも工場又は事業所の保安組織から発電用原子炉主任技術者が独立していることが求められるものではない。		第8条	原子炉主任技術者の選任	—
4. 電気主任技術者及びボイラー・タービン主任技術者が保安の監督の責務を十分に果たすことができるようにするため、電気事業法第43条第4項に規定する要件を満たすことを含め、職務範囲及びその内容について適切に定められていること。また、電気主任技術者及びボイラー・タービン主任技術者が保安の監督を適切に行う上で、必要な権限及び組織上の位置付けがなされていること。		第3条 第7条 第8条の2 第9条の2	品質マネジメントシステム計画 原子力発電保安運営委員会 電気主任技術者及びボイラー・タービン主任技術者の選任 電気主任技術者及びボイラー・タービン主任技術者の職務等	— — — —
5. 発電用原子炉主任技術者、電気主任技術者及びボイラー・タービン主任技術者が相互の職務について情報を共有し、意思疎通を図ることが定められていること。	第7条 第9条 第9条の2 第9条の3	原子力発電保安運営委員会 原子炉主任技術者の職務等 電気主任技術者及びボイラー・タービン主任技術者の職務等 主任技術者の情報共有	— — — —	

	保安規定審査基準（実用炉）	保安規定条文	変更有無	
実用炉規則第92条第1項第7号【保安教育】	1. 発電用原子炉施設の運転及び管理を行う者（役務を供給する事業者に属する者を含む。以下「従業員」という。）について、保安教育実施方針が定められていること。	第117条	所員への保安教育	—
		第118条	受注者従業員への保安教育	—
	2. 従業員について、保安教育実施方針に基づき、保安教育実施計画を定め、計画的に保安教育を実施することが定められていること。	第117条	所員への保安教育	—
		第118条	受注者従業員への保安教育	—
	3. 従業員について、保安教育実施方針に基づいた保安教育実施状況を確認することが定められていること。	第117条	所員への保安教育	—
		第118条	受注者従業員への保安教育	—
	4. 燃料取替に関する業務の補助及び放射性廃棄物取扱設備に関する業務の補助を行う従業員については、当該業務に係る保安教育を実施することが定められていること。	第118条	受注者従業員への保安教育	—
	5. 保安教育の内容について、関係法令及び保安規定への抵触を起ささないことを徹底する観点から、具体的な保安教育の内容、その見直しの頻度等について明確に定められていること。	第117条	所員への保安教育	—
		第118条	受注者従業員への保安教育	—
実用炉規則第92条第1項第8号イからハまで【発電用原子炉施設の運転に関する体制、確認すべき事項、異状があった場合の措置等】	1. 発電用原子炉の運転に必要な運転員の確保について定められていること。 2. 発電用原子炉施設の運転管理に係る組織内規程類を作成することが定められていること。 3. 運転員の引継時に実施すべき事項について定められていること。 4. 発電用原子炉の起動その他の発電用原子炉の運転に当たって確認すべき事項について定められていること。 5. 地震、火災、有毒ガス（予期せず発生するものを含む。）等の発生時に講ずべき措置について定められていること。 6. 原子炉冷却材の水質の管理について定められていること。 7. 発電用原子炉施設の重要な機能に関して、安全機能を有する系統及び機器、重大事故等対処設備（特定重大事故等対処施設を構成する設備を含む。）等について、運転状態に対応した運転上の制限（Limiting Conditions for Operation. 以下「LCO」という。）、LCOを逸脱していないことの確認（以下「サーベイランス」という。）の実施方法及び頻度、LCOを逸脱した場合に要求される措置（以下単に「要求される措置」という。）並びに要求される措置の完了時間（Allowed Outage Time. 以下「AOT」という。）が定められていること。 なお、LCO等は、許可を受けたところによる安全解析の前提条件又はその他の設計条件を満足するように定められていること。	第12条	原子炉の運転員の確保	—
		第14条	要領の作成	—
		第15条	引継及び通知	—
		第12条の2	運転管理業務	—
		第13条	巡視点検	—
		第16条	原子炉起動前の確認事項	—
		第17条	地震・火災等発生時の対応	—
		第18条	水質管理	—
		第19条	停止余裕	—
		第20条	反応度監視	—
		第21条	制御棒の動作確認	—
		第22条	制御棒のスクラム機能	—
		第23条	制御棒の操作	—
		第24条	ほう酸水注入系	—
		第25条	原子炉熱的制限値	—
		第26条	原子炉熱出力及び炉心流量	—
		第27条	計測及び制御設備	—
		第28条	原子炉冷却材再循環ポンプ	—
		第29条	ジェットポンプ	—
		第30条	逃がし安全弁	—
		第31条	原子炉格納容器内の原子炉冷却材漏えい率	—
		第32条	非常用炉心冷却系及び原子炉隔離時冷却系の系統圧力監視	—
		第33条	原子炉冷却材中のよう素131濃度	—
		第34条	原子炉停止時冷却系その1	—
		第35条	原子炉停止時冷却系その2	—
		第36条	原子炉停止時冷却系その3	—
		第37条	原子炉冷却材温度及び原子炉冷却材温度変化率	—
		第38条	原子炉圧力	—
		第39条	非常用炉心冷却系その1	—
		第40条	非常用炉心冷却系その2	—
		第41条	原子炉隔離時冷却系	—
		第42条	主蒸気隔離弁	—
		第43条	原子炉格納容器及び原子炉格納容器隔離弁	—
		第44条	サブプレッション・チェンバからドライウェルへの真空破壊弁	—
		第45条	サブプレッションプールの平均水温	—
		第46条	サブプレッションプールの水位	—
		第47条	可燃性ガス濃度制御系	—
		第48条	原子炉格納容器内の酸素濃度	—
		第49条	原子炉建屋	—
		第50条	原子炉建屋給排気隔離弁	—
		第51条	非常用ガス処理系	—
		第52条	原子炉補機冷却水系及び原子炉補機冷却海水系	—
		第53条	高圧炉心スプレディーゼル補機冷却水系及び高圧炉心スプレディーゼル補機冷却海水系	—
		第54条	使用済燃料貯蔵プールの水位及び水温	—
		第55条	燃料又は制御棒を移動する時の原子炉水位	—

保安規定審査基準（実用炉）		保安規定条文		変更有無	
実用炉規則第92条第1項第8号イからハまで 【発電用原子炉施設の運転に関する体制、確認すべき事項、異状があった場合の措置等】	7. 発電用原子炉施設の重要な機能に関して、安全機能を有する系統及び機器、重大事故等対処設備（特定重大事故等対処施設を構成する設備を含む。）等について、運転状態に対応した運転上の制限（Limiting Conditions for Operation. 以下「LCO」という。）、LCOを逸脱していないことの確認（以下「サーベイランス」という。）の実施方法及び頻度、LCOを逸脱した場合に要求される措置（以下単に「要求される措置」という。）並びに要求される措置の完了時間（Allowed Outage Time. 以下「AOT」という。）が定められていること。 なお、LCO等は、許可を受けたところによる安全解析の前提条件又はその他の設計条件を満足するように定められていること。	第56条	中央制御室換気空調再循環系	—	
			第57条	外部電源その1	—
			第58条	外部電源その2	—
			第59条	非常用ディーゼル発電機その1	—
			第60条	非常用ディーゼル発電機その2	—
			第61条	非常用ディーゼル発電機燃料油等	—
			第62条	直流電源その1	—
			第63条	直流電源その2	—
			第64条	所内電源系統その1	—
			第65条	所内電源系統その2	—
			第66条	原子炉停止中の制御棒1本の引抜き	—
			第67条	単一制御棒駆動機構の取り外し	—
			第68条	複数の制御棒引抜きを伴う検査	—
			第69条	原子炉の昇温を伴う検査	—
第70条			原子炉モードスイッチの切替を伴う検査	—	
8. サーベイランスの実施方法については、確認する機能が必要となる事故時等の条件で必要な機能が発揮できるかどうかを確認（以下「実条件性能確認」という。）するために十分な方法（事故時等の条件を模擬できない場合等においては、実条件性能確認に相当する方法であることを検証した代替の方法を含む。）が定められていること。また、サーベイランス及び要求される措置を実施する時期の延長に関する考え方、サーベイランスの際のLCOの取扱い等が定められていること。	第71条	運転上の制限の確認	—		
9. LCOを逸脱した場合について、事象発見からLCOに係る判断までの対応目安時間等を組織内規程類に定めること及び要求される措置等の取扱方法が定められていること。	第72条	運転上の制限を満足しない場合	—		
10. LCOに係る記録の作成について定められていること。	第74条	運転上の制限に関する記録	—		
11. LCOを逸脱した場合のほか、緊急遮断等の異常発生時や監視項目が警報設定値を超過するなどの異状があった場合の基本的対応事項及び講ずべき措置並びに異常収束後の措置について定められていること。	第12条の2	運転管理業務	—		
	第17条の2	電源機能等喪失時の体制の整備	—		
	第75条	異常発生時の基本的な対応	—		
	第76条	異常時の措置	—		
	第77条	異常収束後の措置	—		
添付1	原子炉がスクラムした場合の運転操作基準（第76条関連）	—			
12. LCOが設定されている設備等について、予防保全を目的とした保全作業をその機能が要求されている発電用原子炉の状態においてやむを得ず行う場合には、当該保全作業が限定され、原則としてAOT内に完了することとし、必要な安全措施を定め、確率論的リスク評価（PRA: Probabilistic Risk Assessment）等を用いて措置の有効性を検証することが定められていること。	第73条	予防保全を目的とした点検・保守を実施する場合	—		
実用炉規則第92条第1項第8号ニ 【発電用原子炉の運転期間】	1. 発電用原子炉の運転期間の範囲内で、発電用原子炉を運転することが定められていること。	第11条	構成及び定義	—	
		第11条の2	原子炉の運転期間	—	
	2. 取替炉心の安全性評価を行うことが定められていること。 なお、取替炉心の安全性評価に用いる期間は、当該取替炉心についての燃料交換の間隔から定まる期間としていること。	第81条	燃料の取替実施計画	—	
		第82条	燃料移動手順	—	
		第83条	燃料移動	—	
	3. 実用炉規則第92条第2項第1号に基づき、実用炉規則第92条第1項第8号ニに掲げる発電用原子炉の運転期間を定め、又はこれを変更しようとする場合は、申請書に発電用原子炉の運転期間の設定に関する説明書（発電用原子炉の運転期間を変更しようとする場合は、実用炉規則第82条第4項の見直しの結果を記載した書類を含む。以下単に「説明書」という。）が添付されていること。	—	（手続きに関する事項であり、保安規定に記載なし）	—	
	4. 発電用原子炉ごとに、説明書に記載された①発電用原子炉を停止して行う必要のある点検及び検査の間隔から定まる期間、②燃料交換の間隔から定まる期間（発電用原子炉起動から次回の定期事業者検査を開始するために発電用原子炉を停止するまでの期間）、のうちいずれか短い期間の範囲内で、実用炉規則第55条に定める定期事業者検査を実施すべき時期の区分を上限として、発電用原子炉の運転期間（定期事業者検査が終了した日から次回の定期事業者検査を開始するために発電用原子炉を停止するまでの期間）が記載されていること。なお、発電用原子炉の運転期間の設定に当たっては、発電用原子炉を起動してから定期事業者検査が終了するまでの期間も考慮していること。 実用炉規則第82条第4項の見直しの結果の内容は、「実用発電用原子炉施設における高経年化対策実施ガイド」（原管P発第1306198号（平成25年6月19日原子力規制委員会決定））を参考として記載していること。	—	（手続きに関する事項であり、保安規定に記載なし）	—	
		5. 特に、同結果において、発電用原子炉の運転期間の変更に伴う長期施設管理方針の変更の有無及びその理由が明らかとなっていること。	—	（運転期間の延長は実施していないことから該当なし）	—

保安規定審査基準（実用炉）		保安規定条文		変更有無
実用炉規則第92条第1項第8号ニ 【発電用原子炉の運転期間】	6. 発電用原子炉の運転期間を延長する場合には、実用炉規則第55条に定める定期事業者検査を実施すべき時期の区分を上限として、段階的に延長することとなっていること。	—	(運転期間の延長は実施していないことから該当なし)	—
	7. 運転期間が13月を超える延長の場合には、当該延長に伴う許可を受けたところによる基本設計ないし基本的設計方針に則した影響評価の結果が説明書に記載されていること。	—	(運転期間の延長は実施していないことから該当なし)	—
	8. 説明書に記載された燃料交換の間隔から定まる期間については、期間を変更した後においても発電用原子炉の安全性について許可を受けたところによる基本設計ないし基本的設計方針を満たしていること。	—	(運転期間の延長は実施していないことから該当なし)	—
実用炉規則第92条第1項第8号ホ 【発電用原子炉施設の運転の安全審査】	1. 発電用原子炉施設の保安に関する重要事項及び発電用原子炉施設の保安運営に関する重要事項を審議する委員会の設置、構成及び審議事項について定められていること。	第6条	原子力発電保安委員会	—
		第7条	原子力発電保安運営委員会	—
実用炉規則第92条第1項第9号 【管理区域、保全区域及び周辺監視区域の設定等】	1. 管理区域を明示し、管理区域における他の場所と区別するための措置を定め、管理区域の設定及び解除において実施すべき事項が定められていること。	第91条の2	管理区域の設定及び解除	—
		添付2	管理区域図（第91条の2）	—
	2. 管理区域内の区域区分について、汚染のおそれのない管理区域及びそれ以外の管理区域について表面汚染密度及び空気中の放射性物質濃度の基準値が定められていること。	第92条	管理区域内における区域区分	—
	3. 管理区域内において特別措置が必要な区域について講ずべき措置を定め、特別措置を実施する外部放射線に係る線量当量率、空気中の放射性物質濃度及び床、壁その他の人のおそれのある物の表面汚染密度の基準が定められていること。	第93条	管理区域内における特別措置	—
	4. 管理区域への出入管理に係る措置事項が定められていること。	第94条	管理区域への出入管理	—
	5. 管理区域から退出する場合等の表面汚染密度の基準が定められていること。	第94条	管理区域への出入管理	—
	6. 管理区域へ出入りする者に遵守させるべき事項及びそれを遵守させる措置が定められていること。	第95条	管理区域出入者の遵守事項	—
	7. 管理区域から物品又は核燃料物質等の搬出及び運搬をする際に講ずべき事項が定められていること。	第102条	管理区域外等への搬出及び運搬	—
		第103条	発電所外への運搬	—
	8. 保全区域を明示し、保全区域についての管理措置が定められていること。	第96条	保全区域	—
		添付3	保全区域図（第96条関連）	—
	9. 周辺監視区域を明示し、業務上立ち入る者を除く者が周辺監視区域に立ち入らないように制限するために講ずべき措置が定められていること。	第97条	周辺監視区域	—
	10. 役務を供給する事業者に対して遵守させる放射線防護上の必要事項及びこれを遵守させる措置が定められていること。	第104条	受注者の放射線防護	—
	—	第90条	頻度の定義	—
実用炉規則第92条第1項第10号 【排気監視設備及び排水監視設備】	1. 放射性気体廃棄物及び放射性液体廃棄物の放出物質濃度の測定等の放出管理に係る設備の設置及び機能の維持の方法並びにその使用方法が定められていること。	第87条	放射性液体廃棄物の管理	—
		第88条	放射性気体廃棄物の管理	—
	2. これらの設備の機能の維持の方法については、施設全体の管理方法の一部として、第18号における施設管理に関する事項と併せて定められていてもよい。また、これらの設備のうち放射線測定に係るもの使用方法については、施設全体の管理方法の一部として、第12号における放射線測定器の管理及び放射線の測定の方法に関する事項と併せて定められていてもよい。	—	(1.の記載箇所についての説明であり、保安規定に記載なし)	—
実用炉規則第92条第1項第11号 【線量、線量当量、汚染の除去等】	1. 放射線業務従事者が受ける線量について、線量限度を超えないための措置（個人線量計の管理の方法を含む。）が定められていること。	第98条	放射線業務従事者の線量管理等	—
	2. 国際放射線防護委員会（ICRP）が1977年勧告で示した放射線防護の基本的考え方を示す概念（as low as reasonably achievable。以下「ALARA」という。）の精神にのっとり、放射線業務従事者が受ける線量を管理することが定められていること。	第2条	基本方針	—
		第91条	放射線管理に係る基本方針	—
	3. 実用炉規則第78条に基づく床、壁等の除染を実施すべき表面汚染密度の明確な基準が定められていること。	第99条	床、壁等の除染	—
	4. 管理区域及び周辺監視区域境界付近における線量当量率等の測定に関する事項が定められていること。	第100条	外部放射線に係る線量当量率等の測定	—
	5. 管理区域内で汚染のおそれのない区域に物品又は核燃料物質等を移動する際に講ずべき事項が定められていること。	第102条	管理区域外等への搬出及び運搬	—
	6. 核燃料物質等（新燃料、使用済燃料及び放射性固体廃棄物を除く。）の工場又は事業所の外への運搬に関する行為（工場又は事業所の外での運搬中に関するものを除く。）が定められていること。なお、この事項は、第13号又は第14号における運搬に関する事項と併せて定められていてもよい。	第102条	管理区域外等への搬出及び運搬	—
		第103条	発電所外への運搬	—

保安規定審査基準（実用炉）		保安規定条文		変更有無
実用炉規則第92条第1項第11号【線量、線量当量、汚染の除去等】	7. 原子炉等規制法第61条の2第2項により認可を受けた場合においては、同項により認可を受けた放射能濃度の測定及び評価の方法に基づき、当該認可を受けた申請書等において記載された内容を満足するよう、同条第1項の確認を受けようとする物に含まれる放射性物質の放射能濃度の測定及び評価を行い、適切に取り扱うことが定められていること。なお、この事項は、放射性廃棄物との仕分け等を明確にするため、第14号における放射性廃棄物の管理に関する事項と併せて定められていてもよい。	—	(クリアランス規定は採用していないため、保安規定に記載なし)	—
	8. 放射性廃棄物でない廃棄物の取扱いに関することについては、「原子力施設における「放射性廃棄物でない廃棄物」の取扱いについて（指示）」(平成20・04・21原院第1号(平成20年5月27日原子力安全・保安院制定(NISA-111a-08-1)))を参考として定められていること。なお、この事項は、放射性廃棄物との仕分け等を明確にするため、第14号における放射性廃棄物の管理に関する事項と併せて定められていてもよい。	—	(放射性廃棄物でない廃棄物の適用は採用していないため、保安規定に記載なし)	—
		第86条の3	事故由来放射性物質の降下物の影響確認	—
		第90条	頻度の定義	—
	9. 汚染拡大防止のための放射線防護上、必要な措置が定められていること。	第91条の2	管理区域の設定及び解除	—
		第92条	管理区域内における区域区分	—
		第95条	管理区域出入者の遵守事項	—
		第99条	床、壁等の除染	—
		第102条	管理区域外等への搬出及び運搬	—
実用炉規則第92条第1項第12号【放射線測定器の管理及び放射線の測定の方法】	1. 放射線測定器（放出管理用計測器及び放射線計測器を含む。以下同じ。）の種類、所管箇所、数量及び機能の維持の方法並びにその使用方法（測定及び評価の方法を含む。）が定められていること。	第89条	放出管理用計測器の管理	—
	2. 放射線測定器の機能の維持の方法については、施設全体の管理方法の一部等として、第18号における施設管理に関する事項と併せて定められていてもよい。	第101条	放射線計測器類の管理	—
実用炉規則第92条第1項第13号【核燃料物質の受払い、運搬、貯蔵等】	1. 工場又は事業所内における新燃料の運搬及び貯蔵並びに使用済燃料の運搬及び貯蔵に際して、臨界に達しないようにする措置その他の保安のために講ずべき措置を講ずること、貯蔵施設における貯蔵の条件等が定められていること。	第78条	新燃料の運搬	—
		第79条	新燃料の貯蔵	—
		第84条	使用済燃料の貯蔵	—
		第85条	使用済燃料の運搬	—
		第85条	使用済燃料の運搬	—
	2. 新燃料及び使用済燃料の工場又は事業所の外への運搬に関する行為（工場又は事業所の外での運搬中に関するものを除く。）に関することが定められていること。なお、この事項は、第11号又は第14号における運搬に関する事項と併せて定められていてもよい。	第78条	新燃料の運搬	—
		第85条	使用済燃料の運搬	—
	3. 燃料取替に際して、炉心の核的制限値及び熱的制限値の範囲内で運転するために取替炉心の安全性評価を許可を受けたところによる安全評価と同様に行った上で燃料装荷実施計画を定めること及び燃料移動手順に従うこと等が定められていること。なお、発電用原子炉の運転期間の設定に関する説明書において取替炉心ごとに管理するとして項目が、取替炉心の安全性評価項目等として定められていること。	第81条	燃料の取替実施計画	—
		第82条	燃料移動手順	—
第83条		燃料移動	—	
実用炉規則第92条第1項第14号【放射性廃棄物の廃棄】	1. 放射性固体廃棄物の貯蔵及び保管に係る具体的な管理措置並びに運搬に関し、放射線安全確保のための措置が定められていること。	第86条の2	放射性固体廃棄物の管理	—
	2. 放射性液体廃棄物の固化等処理及び放射性廃棄物の工場又は事業所の外への廃棄（放射性廃棄物の輸入を含む。）に関する行為の実施体制が定められていること。	第86条の2	放射性固体廃棄物の管理	—
		第86条の4	輸入廃棄物の管理	—
	3. 放射性固体廃棄物の工場又は事業所の外への運搬に関する行為（工場又は事業所の外での運搬中に関するものを除く。）に係る体制が構築されていることが明記されていること。なお、この事項は、第11号及び第13号における運搬に関する事項と併せて定められていてもよい。	第86条の2	放射性固体廃棄物の管理	—
	4. 放射性液体廃棄物の放出箇所、放射性液体廃棄物の放出管理目標値及び基準値を満たすための放出管理方法並びに放射性液体廃棄物の放出物質濃度の測定項目及び頻度が定められていること。	第87条	放射性液体廃棄物の管理	—
	5. 放射性気体廃棄物の放出箇所、放射性気体廃棄物の放出管理目標値を満たすための放出管理方法並びに放射性気体廃棄物の放出物質濃度の測定項目及び頻度が定められていること。	第88条	放射性気体廃棄物の管理	—
	6. 平常時の環境放射線モニタリングの実施体制（計画、実施、評価等）について定められていること。	第100条の2	平常時の環境放射線モニタリング	—
	7. ALARAの精神にのっとり、排気、排水等を管理することが定められていること。	第2条	基本方針	—
		第86条	放射性廃棄物管理に係る基本方針	—
		第90条	頻度の定義	—
—	—	—	—	

保安規定審査基準（実用炉）		保安規定条文		変更有無
実用炉規則第92条第1項第15号【非常の場合に講ずべき措置】	1. 緊急時に備え、平常時から緊急時に実施すべき事項が定められていること。	第107条	原子力防災組織	—
		第108条	原子力防災組織の要員	—
		第109条	原子力防災資機材等	—
	2. 緊急時における運転に関する組織内規程類を作成することが定められていること。	第109条	原子力防災資機材等	—
	3. 緊急事態発生時は定められた通報経路に従い、関係機関に通報することが定められていること。	第110条	通報経路	—
		第112条	通報	—
	4. 緊急事態の発生をもってその後の措置は、原子力災害対策特別措置法（平成11年法律第156号）第7条第1項の原子力事業者防災業務計画によることが定められていること。	第107条	原子力防災組織	—
	5. 緊急事態が発生した場合は、緊急時体制を発令し、応急措置及び緊急時における活動を実施することが定められていること。	第113条	防災体制の発令	—
		第114条	応急措置	—
	第115条	緊急時における活動	—	
6. 次に掲げる要件に該当する放射線業務従事者を緊急作業に従事させるための要員として選定することが定められていること。 (1) 緊急作業時の放射線の生体を与える影響及び放射線防護措置について教育を受けた上で、緊急作業に従事する意思がある旨を発電用原子炉設置者に書面で申し出た者であること。 (2) 緊急作業についての訓練を受けた者であること。 (3) 実効線量について250mSvを線量限度とする緊急作業に従事する従業員は、原子力災害対策特別措置法第8条第3項に規定する原子力防災要員、同法第9条第1項に規定する原子力防災管理者又は同条第3項に規定する副原子力防災管理者であること。	第108条の2	緊急作業従事者の選定	—	
7. 放射線業務従事者が緊急作業に従事する期間中の線量管理（放射線防護マスクの着用等による内部被ばくの管理を含む。）、緊急作業を行った放射線業務従事者に対し、健康診断を受診させる等の非常の場合に講ずべき処置に関し、適切な内容が定められていること。	第115条の2	緊急作業従事者の線量管理等	—	
8. 事象が収束した場合には、緊急時体制を解除することが定められていること。	第116条	防災体制の解除	—	
9. 防災訓練の実施頻度について定められていること。	第111条	防災訓練	—	
実用炉規則第92条第1項第16号【設計想定事象等に対する発電用原子炉施設の機能の保全に関する措置】	1. 許可を受けたところによる基本設計ないし基本的設計方針に則した対策が機能するよう、想定する事象に応じて、次に掲げる措置を講ずることが定められていること。	—	—	—
	(1) 発電用原子炉施設の必要な機能を維持するための活動に関する計画を策定し、要員を配置するとともに、計画に従って必要な活動を行わせること。特に、当該計画には、次に掲げる事項を含めること。	第17条	地震・火災等発生時の対応	—
	イ 火災 可燃物の管理、消防吏員への通報、消火又は延焼の防止 その他消防隊が火災の現場に到着するまでに行う活動に関すること。	第17条	地震・火災等発生時の対応	—
	ロ 火山現象による影響（影響が発生するおそれを含む。以下「火山影響等」という。） ① 火山影響等発生時における非常用交流動力電源設備の機能を維持するための対策に関すること。 ② ①に掲げるもののほか、火山影響等発生時における代替電源設備その他の炉心を冷却するために必要な設備の機能を維持するための対策に関すること。 ③ ②に掲げるもののほか、火山影響等発生時に交流動力電源が喪失した場合における炉心の著しい損傷を防止するための対策に関すること。	—	[新規制基準に係る保安規定審査基準の要求事項であり、現時点で保安規定に記載なし（新規制基準対応のための補正申請後、審査を受ける予定）]	—
	ハ 重大事故に至るおそれのある事故（運転時の異常な過渡変化及び設計基準事故を除く。）又は重大事故（以下「重大事故等」という。） ① 重大事故等発生時における炉心の著しい損傷を防止するための対策に関すること。 ② 重大事故等発生時における原子炉格納容器の破損を防止するための対策に関すること。 ③ 重大事故等発生時における使用済燃料貯蔵設備に貯蔵する燃料体の著しい損傷を防止するための対策に関すること。 ④ 重大事故等発生時における原子炉停止時の燃料体の著しい損傷を防止するための対策に関すること。 ⑤ 重大事故等（原子炉建屋への故意による大型航空機の衝突その他のテロリズムによるものを除く。）発生時における特定重大事故等対処施設を用いた対策（上記①から④までの対策に関することを含む。）に関すること。 ⑥ 発生する有毒ガスからの運転員等の防護に関すること。	—	[新規制基準に係る保安規定審査基準の要求事項であり、現時点で保安規定に記載なし（新規制基準対応のための補正申請後、審査を受ける予定）]	—

	保安規定審査基準（実用炉）		保安規定条文	変更有無	
実用炉規則第92条第1項第16号【設計想定事象等に対する発電用原子炉施設の機能の保全に関する措置】	ニ 大規模な自然災害又は故意による大型航空機の衝突その他のテロリズムによる発電用原子炉施設の大規模な損壊（以下「大規模損壊」という。） ① 大規模損壊発生時における大規模な火災が発生した場合における消火活動に関すること。 ② 大規模損壊発生時における炉心の著しい損傷を緩和するための対策に関すること。 ③ 大規模損壊発生時における原子炉格納容器の破損を緩和するための対策に関すること。 ④ 大規模損壊発生時における使用済燃料貯蔵槽の水位を確保するための対策及び燃料体の著しい損傷を緩和するための対策に関すること。 ⑤ 大規模損壊発生時における放射性物質の放出を低減するための対策に関すること。 ⑥ 重大事故等（原子炉建屋への故意による大型航空機の衝突その他のテロリズムによるものに限る。）発生時における特定重大事故等対処施設を用いた対策に関すること。	—	[新規基準に係る保安規定審査基準の要求事項であり、現時点で保安規定に記載なし（新規基準対応のための補正申請後、審査を受ける予定）]	—	
	(2) (1)に掲げる措置のうち重大事故等発生時又は大規模損壊発生時におけるそれぞれの措置に係る手順については、それぞれ次に掲げるとおりとすること。	—	[新規基準に係る保安規定審査基準の要求事項であり、現時点で保安規定に記載なし（新規基準対応のための補正申請後、審査を受ける予定）]	—	
	イ 重大事故等発生時 ① 許可を受けた対応手段、重要な配慮事項、有効性評価の前提条件となる操作の成立性に係る事項が定められ、定められた内容が重大事故等に対する的確かつ柔軟に対処することを妨げるものでないこと。 ② 炉心の著しい損傷及び原子炉格納容器の破損を防ぐために最優先すべき操作等の判断基準の基本的な考え方が定められていること。 原子炉格納容器の過圧破損の防止に係る手順については、格納容器圧力逃がし装置を設けている場合、格納容器代替循環冷却系又は格納容器再循環ユニットにより原子炉格納容器内の圧力及び温度を低下させる手順を、格納容器圧力逃がし装置による手順に優先して実施することが定められているとともに、原子炉格納容器内の圧力が高い場合など、必要な状況においては確実に格納容器圧力逃がし装置を使用することが定められていること。 ③ 措置に係る手順の優先順位や手順着手の判断基準等（②に関するものを除く。）については記載を要しない。	—	[新規基準に係る保安規定審査基準の要求事項であり、現時点で保安規定に記載なし（新規基準対応のための補正申請後、審査を受ける予定）]	—	
	ロ 大規模損壊発生時 定められた内容が大規模損壊に対する的確かつ柔軟に対処することを妨げるものでないこと。	—	[新規基準に係る保安規定審査基準の要求事項であり、現時点で保安規定に記載なし（新規基準対応のための補正申請後、審査を受ける予定）]	—	
	(3) 必要な機能を維持するための活動を行う要員に対する教育及び訓練に関すること。特に重大事故等又は大規模損壊の発生時における発電用原子炉施設の必要な機能を維持するための活動を行う要員に対する教育及び訓練については、それぞれ毎年1回以上定期に実施すること及び重大事故等対処施設の使用を開始するに当たって必要な教育及び訓練をあらかじめ実施すること。	[(1)に同じ]	[(1)に同じ]	—	
	(4) 必要な機能を維持するための活動を行うために必要な電源車、消防自動車、化学消防自動車、泡消火薬剤、消火ホース、照明器具、無線機器、フィルターその他の資機材を備え付けること。	[(1)に同じ]	[(1)に同じ]	—	
	(5) その他必要な機能を維持するための活動を行うために必要な体制を整備すること。	[(1)に同じ]	[(1)に同じ]	—	
	2. 重大事故等又は大規模損壊が発生した場合において、核燃料物質若しくは核燃料物質によって汚染された物又は発電用原子炉による災害を防止するために必要であると認めるときは、組織内規程類にあらかじめ定めた計画及び手順にとらわれず、発電用原子炉施設の保全のための所要の措置を講ずることが定められていること。	—	[新規基準に係る保安規定審査基準の要求事項であり、現時点で保安規定に記載なし（新規基準対応のための補正申請後、審査を受ける予定）]	—	
	実用炉規則第92条第1項第17号【記録及び報告】	1. 発電用原子炉施設に係る保安に関し、必要な記録を適正に作成し、管理することが定められていること。その際、保安規定及びその下位文書において、必要な記録を適正に作成し、管理するための措置が定められていること。	第3条 第119条	品質マネジメントシステム計画 記録	— —
		2. 実用炉規則第67条に定める記録について、その記録の管理に関すること（計量管理規定及び核物質防護規定で定めるものを除く。）が定められていること。	第119条	記録	—
3. 発電所長及び発電用原子炉主任技術者に報告すべき事項が定められていること。		第9条 第120条	原子炉主任技術者の職務等 報告	— —	
4. 特に、実用炉規則第134条各号に掲げる事故故障等の事象及びこれらに準ずるものが発生した場合においては、経営責任者に確実に報告がなされる体制が構築されていることなど、安全確保に関する経営責任者の強い関与が明記されていること。		第120条	報告	—	
5. 当該事故故障等の事象に準ずる重大な事象について、具体的に明記されていること。		第120条	報告	—	

保安規定審査基準（実用炉）		保安規定条文		変更有無
実用炉規則第92条第1項第18号【発電用原子炉施設の施設管理】	1. 施設管理方針、施設管理目標及び施設管理実施計画の策定並びにこれらの評価及び改善について、「原子力事業者等における使用前事業者検査、定期事業者検査、保安のための措置等に係る運用ガイド」（原規規発第1912257号-7（令和元年12月25日原子力規制委員会決定））を参考として定められていること。	第13条	巡視点検	—
		第106条	施設管理計画	—
		第106条の2	設計管理	—
		第106条の3	作業管理	—
	2. 発電用原子炉施設の経年劣化に係る技術的な評価に関することについては、「実用発電用原子炉施設における高経年化対策実施ガイド」を参考とし、実用炉規則第82条に規定された発電用原子炉施設の経年劣化に関する技術的な評価を実施するための手順及び体制を定め、当該評価を定期的に実施することが定められていること。	第106条の6	原子炉施設の経年劣化に関する技術的な評価及び長期施設管理方針	有
	3. 運転を開始した日以後30年を経過した発電用原子炉については、長期施設管理方針が定められていること。	添付4	長期施設管理方針（第106条の6関連）	有
	4. 実用炉規則第92条第1項第18号に掲げる発電用原子炉施設の施設管理に関することを変更しようとする場合（実用炉規則第82条第1項から第3項までの規定により長期施設管理方針を策定し、又は同条第4項の規定により長期施設管理方針を変更しようとする場合に限る。）は、申請書に実用炉規則第82条第1項、第2項若しくは第3項の評価の結果又は第4項の見直しの結果を記載した書類（以下「技術評価書」という。）が添付されていること。	—	（手続きに関する事項であり、保安規定に記載なし）	—
	5. 長期施設管理方針及び技術評価書の内容は、「実用発電用原子炉施設における高経年化対策の実施ガイド」を参考として記載されていること。	添付4	長期施設管理方針（第106条の6関連）	有
6. 使用前事業者検査及び定期事業者検査の実施に関することが定められていること。	第106条の4	使用前事業者検査の実施	—	
	第106条の5	定期事業者検査の実施	—	
	第80条	燃料の検査	—	
7. 燃料体に関する定期事業者検査として、装荷予定の照射された燃料のうちから選定したものの健全性に異常のないことを確認すること、燃料使用の可否を判断すること等が定められていること。				
実用炉規則第92条第1項第19号【技術情報の共有】	1. プラントメーカーなどの保守点検を行った事業者から得られた保安に関する技術情報をBWR事業者協議会、PWR事業者連絡会等の事業者の情報共有の場を活用し、他の発電用原子炉設置者と共有し、自らの発電用原子炉施設の保安を向上させるための措置が定められていること。	第106条	施設管理計画	—
実用炉規則第92条第1項第20号【不適合発生時の情報の公開】	1. 発電用原子炉施設の保安の向上を図る観点から、不適合が発生した場合の公開基準が定められていること。	第3条	品質マネジメントシステム計画	—
	2. 情報の公開に関し、原子力施設情報公開ライブラリーへの登録等に必要な事項が定められていること。	第3条	品質マネジメントシステム計画	—
実用炉規則第92条第1項第21号【その他必要な事項】	1. 日常のQMSに係る活動の結果を踏まえ、必要に応じ、発電用原子炉施設に係る保安に関し必要な事項を定めていること。	第1条	目的	—
	2. 保安規定を定める「目的」が、核燃料物質、核燃料物質によって汚染された物又は発電用原子炉による災害の防止を図るものとして定められていること。	第1条	目的	—

2. 保安規定審査基準の要求事項に対する保安規定の記載内容

項 目	説 明 内 容
関連する実用炉規則	○「黒字」により，保安規定審査基準に関連する実用炉規則の内容を記載する。
保安規定審査基準	○「黒字」により，保安規定審査基準の内容を記載する。
記載すべき内容	○「黒字」により，保安規定に記載すべき内容を記載する。 また，記載にあたっては，文書の体系がわかる範囲で記載する。 ○「 <u>黒字（赤下線）</u> 」により，保安規定の変更内容を記載する。
記載の考え方	○保安規定に記載すべき内容の記載の考え方を記載する。 ○社内規定文書（2次文書等）に記載すべき内容の記載の考え方を記載する。 ○保安規定及び社内文書（2次文書等）他に記載しない場合の考え方を記載する。
該当規定文書	○該当する社内規定文書（2次文書等）を記載する。
記載内容の概要	○該当する社内規定文書（2次文書等）の具体的な記載内容を記載する。

保安規定審査基準の要求事項に対する保安規定への記載内容

関連する実用炉規則	保安規定審査基準	原子炉施設保安規定		社内規定文書	
		記載すべき内容	記載の考え方	該当規程文書	記載内容の概要
(保安規定) 第九十二条 法第四十三条の三の二十四第一項の規定による保安規定の認可を受けようとする者は、認可を受けようとする工場又は事業所ごとに、次に掲げる事項について保安規定を定め、これを記載した申請書を提出しなければならない。					
十八 発電用原子炉施設の施設管理に関すること（使用前事業者検査及び定期事業者検査の実施に関すること並びに経年劣化に係る技術的な評価に関すること及び長期施設管理方針を含む。）。	実用炉規則第92条第1項第18号 発電用原子炉施設の施設管理				
	2. 発電用原子炉施設の経年劣化に係る技術的な評価に関することについて、「実用発電用原子炉施設における高経年化対策実施ガイド」を参考とし、実用炉規則第82条に規定された発電用原子炉施設の経年劣化に関する技術的な評価を実施するための手順及び体制を定め、当該評価を定期的に行うことが定められていること。	(原子炉施設の経年劣化に関する技術的な評価及び長期施設管理方針) 第106条の6 所長は、1号炉に関し、重要度分類指針におけるクラス1, 2, 3の機能を有する機器及び構造物 ^{※1} （以下、本条において「機器及び構造物」という。）について、営業運転を開始した日以後30年を経過する日までに実施した以下の事項について、第11条の2に定める原子炉の運転期間を変更する場合、あるいはその他経年劣化に関する技術的な評価を行うために設定した条件、評価方法を変更する場合は、当該評価の見直しを行い、その結果に基づき、策定した長期施設管理方針を変更する。 (1) 経年劣化に関する技術的な評価 (2) 前号に基づく長期施設管理方針の策定 ^{※2} 2 所長は、2号炉に関し、機器及び構造物について、営業運転を開始した日以後30年を経過する日までに、実施手順及び実施体制を定め、これに基づき、前項(1)、(2)の事項を実施する。 3 所長は、機器及び構造物について、各号炉毎、運転期間延長認可申請 ^{※3} をする場合においては営業運転を開始した日以降40年を経過する日までに、実施手順及び実施体制を定め、これに基づき第1項(1)、(2)の事項を実施する。 4 所長は、機器及び構造物について、各号炉毎、認可 ^{※4} を受けた延長期間が10年を超える場合においては、営業運転を開始した日以降50年を経過する日までに、実施手順及び実施体制を定め、これに基づき第1項(1)、(2)の事項を実施する。 5 1号炉の長期施設管理方針は添付4に示すものとする。 ※1：動作する機能を有する機器及び構造物に関し、原子炉施設の供用に伴う劣化の状況が的確に把握される箇所を除く。 ※2：30年を経過する日までに策定する場合は10年間の、それ以外の場合は延長する期間の満了日までの方針を策定する。 ※3：核原料物質、核燃料物質及び原子炉の規制に関する法律第43条の3の32第4項に規定される申請をいう。 ※4：核原料物質、核燃料物質及び原子炉の規制に関する法律第43条の3の32第2項に規定される認可をいう。	○1号炉の原子炉施設の経年劣化に関する技術的な評価及び長期施設管理方針の策定に伴い、下記を記載する。 ・1号炉において、「経年劣化に関する技術的な評価」及び「策定した長期施設管理方針」について、原子炉の運転期間を変更する場合、その他経年劣化に関する技術的な評価を行うために設定した条件、評価方法を変更する場合は当該評価の見直し及びその結果に基づき長期施設管理方針を変更すること ・2号炉において、営業運転開始以降30年を経過する日までに「経年劣化に関する技術的な評価」及び「長期施設管理方針の策定」を実施すること ・1号炉の長期施設管理方針を添付4に示すこと	施設管理要則	・施設管理要則及び施設管理要則に紐づく社内規定において、「経年劣化に関する技術的な評価」及び「策定した長期施設管理方針」について、原子炉の運転期間を変更する場合、その他経年劣化に関する技術的な評価を行うために設定した条件、評価方法を変更する場合は当該評価の見直し及びその結果に基づき長期施設管理方針を変更すること等については記載済みであり、社内規定の変更は不要である。

保安規定審査基準の要求事項に対する保安規定への記載内容

関連する実用炉規則	保安規定審査基準	原子炉施設保安規定		社内規定文書	
		記載すべき内容	記載の考え方	該当規程文書	記載内容の概要
	<p>3. 運転を開始した日以後30年を経過した発電用原子炉については、長期施設管理方針が定められていること。</p> <p>(中略)</p> <p>5. 長期施設管理方針及び技術評価書の内容は、「実用発電用原子炉施設における高経年化対策の実施ガイド」を参考として記載されていること。</p>	<p><u>添付4 長期施設管理方針 (第106条の6関連)</u></p> <p><u>(1) 1号炉 長期施設管理方針 (始期：令和5年7月30日、適用期間：10年間)</u></p> <p><u>高経年化対策の観点から充実すべき施設管理の項目はなし*1。</u></p> <p><u>※1：冷温停止状態が維持されることを前提とした評価による。</u></p>	<p>○1号炉について、策定した長期施設管理方針の始期、適用期間、内容について記載する。</p>	<p>施設管理要則</p>	<p>・施設管理要則及び施設管理要則に紐付く社内規定において、「経年劣化に関する技術的な評価」の結果に基づき定めた「長期施設管理方針」の実施について記載済みであり、社内規定の変更は不要である。</p>

志賀原子力発電所原子炉施設保安規定

上流文書（設置許可申請書）から
保安規定への記載内容

1. 上流文書（設置許可申請書）から保安規定への記載方針

設置許可申請書の記載内容から保安規定に記載すべき内容を整理するに当たっては、保安規定変更に係る基本方針を受け、以下の方針により記載する。

(1) 保安規定変更に係る基本方針の内容（抜粋）

1. はじめに

原子炉設置許可申請書で確認された原子炉施設の安全性が、運転段階においても継続して確保されることを担保するために必要な事項を保安規定に要求事項として規定

2. 2. 1 保安規定に記載すべき事項

保安規定に法令等へ適合することを確認した内容の行為者及び行為内容を定める

(2) 保安規定の記載方針

上述の「保安規定変更に係る基本方針」を受け、具体的には、以下の方針で記載する。

① 原子炉設置許可申請書本文は、規制要求事項であるため、原子炉設置許可申請書本文のうち運用に係る事項について実施手段も含めて網羅するように保安規定に記載する。

ただし、例示等に相当する部分の記載は任意とする。

② 原子炉設置許可申請書の添付書類は、直接の規制要求ではないが、(1)項の基本方針に沿って、要求事項に適合するための行為内容の部分は保安規定に記載し、実施手段に相当する部分は必要に応じて2次文書他に記載する。

また、2次文書他に記載するものについてはその理由を明確にする。

③ 原子炉設置許可申請書本文、添付書類の図、表は、法令等へ適合することを確認した内容の行為者及び行為内容に係る部分を保安規定に添付する。

ただし、同図、表の内容が保安規定に記載されている場合は任意とする。

2. 保安規定の記載方針フォーマットの説明

項 目		説 明 内 容
原子炉設置許可申請書 【本文】		<ul style="list-style-type: none"> ○「黒字」により，原子炉設置許可申請書（本文）の内容を記載する。 ○「青字」により，保安規定及び関連する社内規定文書（2次文書）に記載すべき内容を明確にする。
原子炉設置許可申請書 【添付書類】		<ul style="list-style-type: none"> ○「黒字」により，原子炉設置許可申請書（添付書類）の内容を記載する。 ○「青字」により，保安規定及び関連する社内規定文書（2次文書）に記載すべき内容を明確にする。
原子炉施設保安規定	記載すべき内容	<ul style="list-style-type: none"> ○「黒字」により，保安規定に記載すべき内容を記載する。 また，記載に当たっては，文書の体系がわかる範囲で記載する。 ○「<u>黒字（青下線）</u>」により，要求事項を実施する行為者を明確にする。 ○「<u>黒字（赤下線）</u>」により，保安規定の変更内容を記載する。
	記載の考え方	<ul style="list-style-type: none"> ○保安規定に記載すべき内容の記載の考え方を記載する。 ○社内規定文書（2次文書）に記載すべき内容の記載の考え方を記載する。 ○保安規定及び社内規定文書（2次文書）他に記載しない場合の考え方を記載する。
社内規定文書	該当規程文書	○該当する社内規定文書（2次文書）を記載する。
	記載内容の概要	○関連する社内規定文書（2次文書）の具体的な記載内容を記載する。

3. 上流文書（原子炉設置許可申請書）から保安規定への記載内容

上流文書（原子炉設置許可申請書）		保安規定対象条文
(1)	添付書類八（13. 運転保守）	第106条の6 添付4

(1) 添付書類八

設置許可申請書【本文】	設置許可申請書【添付書類】	原子炉施設保安規定		社内規定文書	
		記載すべき内容	記載の考え方	該当規程文書	記載内容の概要
	<p>【添付書類八】</p> <p>13. 運転保守</p> <p>13.1 運転保守の基本方針 原子炉施設の運転保守の基本方針は、「核原料物質、核燃料物質及び原子炉の規制に関する法律」第37条第1項の規定に基づいて定める志賀原子力発電所原子炉施設保安規定（以下13.では「保安規定」という。）によるものとする。</p> <p>（中略）</p> <p>13.7 保守管理 原子炉施設の保守は、保安規定に定める定期的な検査、補修・改造に関する規定を遵守し、所定の計画と適切な手順に従って原子炉施設の安全の確保を妨げることがないよう行う。</p> <p>（以下略）</p>	<p>（原子炉施設の経年劣化に関する技術的な評価及び長期施設管理方針） 第106条の6</p> <p>所長は、1号炉に関し、重要度分類指針におけるクラス1、2、3の機能を有する機器及び構造物^{*1}（以下、本条において「機器及び構造物」という。）について、営業運転を開始した日以後30年を経過する日までに実施した以下の事項について、第11条の2に定める原子炉の運転期間を変更する場合、あるいはその他経年劣化に関する技術的な評価を行うために設定した条件、評価方法を変更する場合は、当該評価の見直しを行い、その結果に基づき、策定した長期施設管理方針を変更する。</p> <p>（1）経年劣化に関する技術的な評価 （2）前号に基づく長期施設管理方針の策定^{*2}</p> <p>2 所長は、2号炉に関し、機器及び構造物について、営業運転を開始した日以後30年を経過する日までに、実施手順及び実施体制を定め、これに基づき、前項（1）、（2）の事項を実施する。</p> <p>3 所長は、機器及び構造物について、各号炉毎、運転期間延長認可申請^{*3}をする場合においては営業運転を開始した日以降40年を経過する日までに、実施手順及び実施体制を定め、これに基づき第1項（1）、（2）の事項を実施する。</p> <p>4 所長は、機器及び構造物について、各号炉毎、認可^{*4}を受けた延長期間が10年を超える場合においては、営業運転を開始した日以降50年を経過する日までに、実施手順及び実施体制を定め、これに基づき第1項（1）、（2）の事項を実施する。</p> <p>5 1号炉の長期施設管理方針は添付4に示すものとする。</p> <p>※1：動作する機能を有する機器及び構造物に関し、原子炉施設の供用に伴う劣化の状況が的確に把握される箇所を除く。 ※2：30年を経過する日までに策定する場合は10年間の、それ以外の場合は延長する期間の満了日までの方針を策定する。 ※3：核原料物質、核燃料物質及び原子炉の規制に関する法律第43条の3の3第4項に規定される申請をいう。 ※4：核原料物質、核燃料物質及び原子炉の規制に関する法律第43条の3の3第2項に規定される認可をいう。</p> <p>添付4 長期施設管理方針（第106条の6関連）</p> <p>（1）1号炉 長期施設管理方針（始期：令和5年7月30日、適用期間：10年間） 高経年化対策の観点から充実すべき施設管理の項目はなし^{*1}。</p> <p>※1：冷温停止状態が維持されることを前提とした評価による。</p>	<p>○1号炉の原子炉施設の経年劣化に関する技術的な評価及び長期施設管理方針の策定に伴い、下記を記載する。</p> <p>・1号炉において、「経年劣化に関する技術的な評価」及び「策定した長期施設管理方針」について、原子炉の運転期間を変更する場合、その他経年劣化に関する技術的な評価を行うために設定した条件、評価方法を変更する場合は当該評価の見直し及びその結果に基づき長期施設管理方針を変更すること等については記載済みであり、社内規定の変更は不要である。</p> <p>・2号炉において、営業運転開始以降30年を経過する日までに「経年劣化に関する技術的な評価」及び「長期施設管理方針の策定」を実施すること</p> <p>・1号炉の長期施設管理方針を添付4に示すこと</p>	<p>施設管理要則</p>	<p>・施設管理要則及び施設管理要則に紐づく社内規定において、「経年劣化に関する技術的な評価」及び「策定した長期施設管理方針」について、原子炉の運転期間を変更する場合、その他経年劣化に関する技術的な評価を行うために設定した条件、評価方法を変更する場合は当該評価の見直し及びその結果に基づき長期施設管理方針を変更すること等については記載済みであり、社内規定の変更は不要である。</p>
		<p>添付4 長期施設管理方針（第106条の6関連）</p> <p>（1）1号炉 長期施設管理方針（始期：令和5年7月30日、適用期間：10年間） 高経年化対策の観点から充実すべき施設管理の項目はなし^{*1}。</p> <p>※1：冷温停止状態が維持されることを前提とした評価による。</p>	<p>○1号炉について、策定した長期施設管理方針の始期、適用期間、内容について記載する。</p>	<p>施設管理要則</p>	<p>・施設管理要則及び施設管理要則に紐づく社内規定において、「経年劣化に関する技術的な評価」の結果に基づき策定した「長期施設管理方針」の実施について記載済みであり、社内規定の変更は不要である。</p>